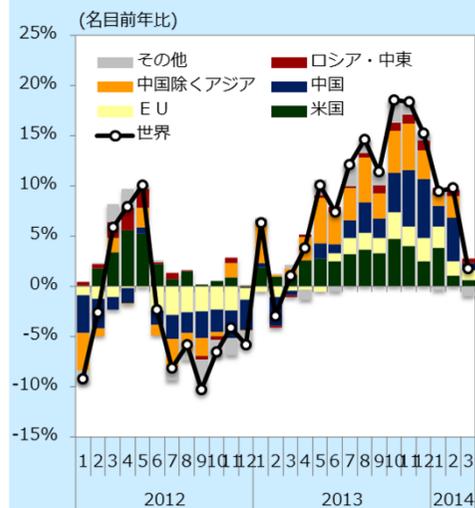


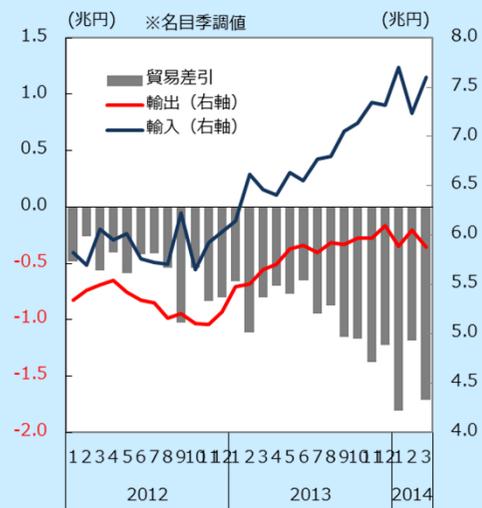
日本：貿易統計（2013年度、2014年3月）

MRI Daily Economic Points
April 21, 2014

地域別輸出



輸出入と収支



評価ポイント

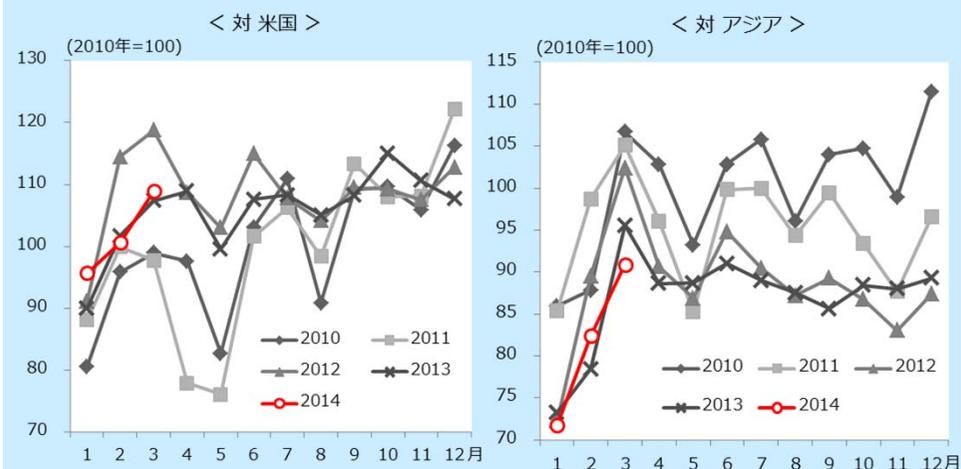
2013年度の結果

- 2013年度の貿易収支(差引)は▲13.7兆円の赤字と、比較可能な1979年以降で最大の赤字となった。赤字は3年連続で、こちらも統計開始以来初となる。輸出は前年比+10.8%と3年ぶりに増加に転じたものの、輸入は同+17.3%と、輸出を上回る伸びをみせた。

2014年3月の結果

- 3月の貿易収支(季調値)は▲1.7兆円と赤字幅が再び拡大した。輸入は前年比+18.1%と高い伸びを続ける一方、輸出が同+1.8%と、2月の同+9.8%から伸びが大きく縮小したことが背景にある。
- 輸出の伸び鈍化は、円安効果の一巡による輸出物価上昇率の低下の影響が大きいが、数量面でも伸びが鈍化。地域別の輸出数量を、春節等の影響を均すため1-3月平均でみると、米国向けは前年比+2.1%、欧州向けは同+4.3%と回復の動きをみせる一方、アジア向けは同▲0.9%と下落に転じた。
- 輸入は、価格指数が前年比+9.6%から同+5.8%に鈍化したが、数量指数は同+11.6%と高い伸びをみせた。原油及び粗油、液化天然ガスの増加のほか、電子機器や自動車引き続き高い伸びをみせている。
- 日銀の実質輸出入によると、3月の輸出は前月比▲3.3%と2ヶ月振りの減少、輸入は同+8.3%と2ヶ月振りの増加となった。1-3月を均してみても、輸入の伸び(同+4.5%)が輸出の伸び(同▲1.0%)を大幅に上回っており、1-3月期のGDPの外需寄与度は3四半期連続のマイナス寄与となろう。

地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」

基調判断と今後の流れ

- 輸出は先進国向けを中心に緩やかに持ち直しているが、輸入の増加により貿易収支では大幅な赤字が続いている。
- 先行きは、先進国向け輸出は緩やかなペースで持ち直しを続ける一方、新興国向け輸出は、中国经济減速の影響などから回復テンポは鈍いとみられ、低調な推移が予想される。
- 貿易収支の赤字幅は、日本の消費増税前の駆け込み需要の影響が剥落する4月以降、若干縮小するとみられるが、輸出の回復テンポは鈍く、当面は▲1兆円前後の赤字継続を予想する。